

益田市自転車活用推進計画_施策進捗管理表_質疑・意見回答

基本方針	施策の方向性	重点施策	通番	施策	実施期間	担当課 ※数値が把握できる課	委員からの質疑・意見	担当課回答
	8_誰もが安心かつ気軽に楽しめるサイクリング環境の整備	○	11	高津川河川管理道等の利活用による新たなサイクリングコースの検討・環境整備	短期	観光交流課 (都市整備課)	<p>今後の対応等にある「令和4年度申請予定」とは何を申請する予定なのか？ 進捗評価がAということは、すでに開催された協議会の中で、サイクリングロードや環境整備についての検討を行ったということか？</p>	<p>国土交通省の「かわまちづくり支援制度」を活用するために、「益田市高津川サイクリングロードかわまちづくり協議会」を立ち上げ、「高津川かわまちづくり計画」の策定を実施。 かわまちづくりとは、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取り組みをいい、かわまちづくりの実現に向けて推進主体（地元住民・団体・事業者等）が策定した「かわまちづくり計画」が承認されれば、当該支援制度において、治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設を整備するハード施策を、河川管理者が実施。 「益田市高津川サイクリングロードかわまちづくり協議会」は、R2.4月に立ち上げ、7回の協議会を実施し、計画について協議を行った。構成員は、高津川沿い各地域の地元住民の代表（連合自治会長等）、公民館職員、地元サイクリングサークルの代表者等。高津川沿いのサイクリングルートを活用し、2つの拠点（流錫馬公園付近、豊田公民館付近）の整備を実施する計画を策定した。 令和4年4月に、国交省へ高津川かわまちづくり計画申請書を提出予定。</p>
							<p>観光振興という観点から、地元にあるものを提供するだけでなく、来訪者(サイクリストに限らず)がニーズを積極的に把握して、地元として整備・準備することをかわまちづくり協議会と連携して望ましいものを検討し、街の魅力アップに努めてもらい。</p>	<p>令和4年3月に高津川流域のコミュニティーサイトがオープン。清流を中心に暮らす人々（益田市民、津和野町民、吉賀町民）と、遠くにいても高津川流域を応援してくれるファンが、一緒になって様々な魅力を作り上げることを目的としている。益田市高津川かわまちづくり協議会は、令和4年3月をもって解散するが、サイクリングに限らず、様々な方法で、街の魅力アップのための取り組みを実施中。</p>
Ⅱ 自転車 を活用した 健康で心豊かな ライフスタイル への転換	9_自転車に親しむ機会の創出	○	13	初心者から参加できる自転車教室の開催	短期	危機管理課	<p>もうすでに策定されている推進計画ではありますが、挙げられる具体的な施策の有効性については、改めて、検討した方がいいのかもしれませんが。例えば、交通安全子供自転車大会は、自転車教室ではないと思います。実生活に役立つ種類のものではありません。</p>	<p>現在の危機管理課単独の事業では難しい面があるが、関係機関（教育委員会や益田警察署等）とも協議の上、実生活に役立つ自転車安全教室の開催に向けた取り組みを検討したい。</p>
							<p>小学生対象の自転車教室の開催についての今後の対応は、コロナ収束次第となっているが、収束に至らなくても開催が可能な内容や安全にできる方法等を検討し、目標値を達成することが望ましいと思います。</p>	<p>目標値を掲げ、新型コロナウイルス感染防止対策を取った上での開催やオンライン講習会などの方法を検討したい。</p>
							<p>オンラインなどが可能であれば、ぜひ開催を！！ コロナ禍に関わらず、子供たちは自転車を利用するので学べる時に学んで頂きたい。</p>	<p>コロナ禍のため、実践・参加型の教室は難しいですが、オンラインでの講習やグループ討論というか形であれば可能ですので、関係機関と調整の上、開催方法を検討する。</p>
			14	自転車による健康教室の開催	短期	健康増進課	<p>今後の対応等で「原課での対応は難しい」とあるが、それを受け今後どのように対応する（どこが担当する）予定なのか。</p> <p>自転車による健康づくりの推進には、自転車専門のインストラクターによる指導は必要ないと考えます。 健康教室の内容は ・自転車に乗る楽しさや心地よさ ※1 ・生活習慣病予防や関節疾患の予防・改善→説明する ※1 ・社会参加の機会が増え、生きがいや閉じこもり防止等活動的な暮らしができる※1 ・自家用車の返納後の交通手段となる ※1 ・自転車を通じる交流会やイベントに参加し、仲間づくりに発展する ※1 ・自転車の構造 ※2 ・交通安全教育（正しい乗り方・マナー等） ※2 等はいかがでしょうか そうならば、健康増進課、健康運動指導士、運動インストラクター、益田警察署等で措置できると考えています。 ※1 自転車活用のメリットを伝える ※2 実践</p> <p>評価がR2R3ともにCとなっており、困難な事柄が述べてあるが、当然行政の中だけでは実施が困難であると考え。</p> <p>インストラクターなどの適材者は行政外に存在していると思われるので早急に検討されたい。たとえば運動健康教室などの講師などで多く実績がある安藤珠美氏は自転車活動にも多くの経験と実績や人的ネットワークがあり、最適な人材と考える。</p>	<p>生活習慣病や介護予防、心の健康づくりを推進するため、運動の効果や必要性について普及啓発を行っている。その中で、自転車を含め、ウォーキングやストレッチ体操、グラウンドゴルフなど多種の運動を取り入れ、自分にあった運動習慣を身に付け、継続することの重要性を啓発しています。ご意見いただいたとおり、今後も運動の種類の1つに自転車があること、運動に関する啓発活動や情報提供を継続していきたい。</p> <p>また、自転車の正しい乗り方、安全な乗り方など、実技を取り入れた教室の開催については、専門講師の指導等も必要となるため、主管課やスポーツ振興担当課から人材や協力団体等の情報提供を受けながら、他課・他団体が行っている既存の教室に健康づくりの要素を盛り込むなど、庁内各課と協働で取り組めるよう検討したい。</p>

益田市自転車活用推進計画_施策進捗管理表_質疑・意見回答

基本方針	施策の方向性	重点施策	通番	施策	実施期間	担当課 ※数値が把握できる課	委員からの質疑・意見	担当課回答
市民と交流できる自転車あでる地域を地域しづみく・り	11_サイクリストの受入れ体制の整備	○	19	手荷物搬送サービスの検討	短期	観光交流課	<p>評価の理由で、いずれも「需要が見込めず」とあるが、需要が見込めないと判断した理由は何か。何らかの調査結果に基づくものなのか。今後の対応で「市外からのサイクリストの声を聴きながら検討」とあるので、まだ需要調査などは行っていないのでは？</p>	<p>この施策は「萩・石見空港から市内の宿泊施設間の手荷物搬送サービスの提供の検討」としていたが、サイクリスト向けのイベントに出展した際に、アンケートを実施し、「自転車旅で利用したことがある交通機関と、益田市への訪問意欲の関係」について調査。自転車旅の経験者において、自動車をアプローチ手段として利用する人が圧倒的に多く(31.9%)、次に自走(27.7%)、鉄道(22.5%)と続き、大阪、広島等大人人口圏からの「自走」を促進がより効果的であるという調査結果が出たが、コロナ禍により誘客ができていない状況。</p>
							<p>今後、サイクリストの声等の情報収集により、内容の検討・実施について実施可能になれば良いと思います</p>	<p>飛行機は5%にとどまっており、手荷物搬送サービスの有無に関わらず、そもそもの飛行機輸送での自転車旅は大多数にとってなじみあるものになっていないことが伺える。コロナ前には首都圏での飛行機輸送講座を開催。参加者を対象に、益田市へのモデルツアーの実施を検討したこともある。(モデルツアーは感染症拡大により中止)</p>
市民と交流できる自転車あでる地域を地域しづみく・り	15_効果的な情報発信	○	27	サイクリングマップの改訂	短期	観光交流課	<p>効果的な情報発信に関して、施策内容を拝見し、気付いたのですが、一般の方が、益田を訪れ、自転車で楽しんでくださるために必要な基本的情報をまとめたウェブサイトを整えるのが、まず第一にやるべきことだと思います。</p>	<p>自転車に関する情報は、現在、市の観光特設サイトや益田市観光公式サイト「益田市観光ガイド」に掲載。観光や仕事で益田市を訪れる方や、目的地への移動手段や空き時間のリフレッシュに、サイクリングを楽しむことを選択肢として考えてもらえるようアプローチしたい。 またウェブサイトについては、既存のサイトの内容充実をまずは検討したい。</p>
							<p>■サイクリングマップ…配布先はどちらに？</p> <p>■SNSなどはありますか？ …もしあれば、メンションなどで拡散できればより発信できるかと。 …益田市などの発信はどのように？</p> <p>■公式#ハッシュタグ決めませんか？ …#で情報の集約ができると情報が入手可能でより拡散可能かと</p> <p>コロナ収束後</p> <p>■家族で参加するサイクリイベント(益田市民向け) …まずは市民がサイクリングの楽しさを実感し、受け入れ態勢を整える。 ※自分たちが経験していれば、自ずと支援したくなる。</p>	<p>〔サイクリングマップの配布先〕 市内・・・観光協会、空港、駅、市内観光施設、サイクリストサポート企業、ホテル等 市外・・・近隣市町の観光協会、首都圏の自転車ショップ、サイクリスト向けイベント出展時の配布等</p> <p>〔SNSについて〕 五輪キャンプ誘致推進課で作成したFacebookやインスタグラムで発信。観光交流課でのSNSはなし。 100km走っても信号で止まる回数がゼロの「#100ZEROのまち」のハッシュタグをつけての投稿を呼びかけていた。</p> <p>〔市民向けサイクリングイベント〕 今年度はコロナ禍によりなかなか計画通りイベントが開催できていない状況だが、市民向けサイクリングイベントを開催。市広報、市HP、SNS、市内小学校等に呼びかけを行い、イベントを実施してきた。</p>
							<p>計画ではサイクリングマップの改訂だけがあるが、既存のコースは多くが長距離でサイクリスト向けである。(特にQRコードを読み込んでコースをたどって楽しむアプリ「Ride With GPS」は月額500円で有料で+014:016あり、少し抵抗を感じる。何か改善は出来ないですか。)</p> <p>既存のものの改訂だけでなく、近距離で市街地程度の一般観光客や市民向けのコースを作成して市内観光を推進すべきである。</p> <p>益田市広報の令和3年3月号の冒頭1～3ページに掲載されている「日本遺産のまち益田の歩き方」で、4つのエリアコースが紹介されており、自転車での所要時間も載っている。こうした歴史や文化的な分野に特化したコースを作成して、来訪者への魅力を増やして自転車での益田の楽しみ方を紹介してもらいたい。</p>	<p>当初ルートラボでコース案内をしていたが、サービス終了により「Ride With GPS」に変更。「Ride With GPS」の使用については、首都圏アドバイザーや市内のサイクリストの意見を参考にした。有料で使用するプランがあるものの、基本的には無料で使用できるものと認識している。</p> <p>また、既存のサイクリングマップは14.3km～155.8kmまでの様々なコースを掲載し、初心者(一般観光客)～中級者～上級者までのかたへのおすすめコースを掲載。今後も、日本遺産に限らず、様々な分野での自転車活用を検討したい。</p>

益田市自転車活用推進計画_施策進捗管理表_質疑・意見回答

○総括事項等に対する意見・質疑

1	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の年次計画 4つの基本方針に沿って各施策が掲げられているが、この年次計画とこれに関わるものとして行政担当課だけでなく、関係組織、企業、地域などを明確にする。この計画を推進するにあたって多くの市民を巻き込んで実施していくことが必要であり、誰が主催者でどういう人が関わって行くのかを明確にした方がよい。 	来年度以降、関係組織の表記について、庁内で検討したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・年次毎の総括評価と次年度以降の見直しのあり方 コロナ等による影響で計画の変更をせざるを得ないが、目標を変更しない場合はそのための準備の充実など、影響下での取り組みの具体的な状況や計画を変更する場合はその内容を明示することが必要。実績評価をA B C で表現することはいいが、その評価によって次年度以降をどう事業推進していくのか計画の見直しや変更も含めて明示することが必要。 	新型コロナウイルス感染症等により、先が見通せない状況であり、現状で計画変更は考えていない。コロナ禍でも実施可能な方法の検討や、アフターコロナを見越しての事業計画の検討を継続したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況の公表 年次ごとの実施状況を公表して推進しているというイメージを示し、市民や関係者の意識を高める。 	益田市自転車活用推進計画策定委員会同様、当委員会の内容についても、今後HP等に掲載し、市民周知を予定。
1	委員	<ul style="list-style-type: none"> ・上位計画(国・県)における位置付け 島根県の計画の中で、益田市の取り組み状況が多く取り上げられて計画が策定されている。益田市の計画は県の計画と整合性はどうかとらわれているかよくわからないが教えてもらいたい。県の計画上での現状として益田市の取り組みはかなり大きく取り上げられているが、事業評価における益田市の取り組みに理解を得て支援策も受けながら益田市の事業推進に繋げてもらいたい。 	島根県と益田市の計画策定は共に同時期（令和2年6月）であったため、情報共有はしていたものの、整合性はとっていない。
		<ul style="list-style-type: none"> ・連携の明確化と関係強化 推進体勢を明確にして権限と責任を強化して事業推進を図る お互いの事業計画を把握して実施時期の調整や共同実施など関係組織や関係事業との連携を大切に効果的な事業実施に努める。 	部局や市町の枠を超えた連携を継続実施したい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進にメリハリ 厳しい財政状況の中ではすべての計画を目標通りに進めることは困難である。 取り巻く環境に応じて、優先順位を着けて効率的な事業推進を図る必要があり、実施時期の検討をする必要は無いのか。 	当計画の推進については、短期・長期事業を分けるとともに、重点施策を優先的に実施すべき事業に位置付けている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・事業予算の明示 このような計画の実施にあたっては予算を伴うのが一般的である。 この計画にあたって特別の予算は掲げられていないが、他の事業の一部を活用するにしても、各予算に自転車利活用推進事業の切り口をもって整理し、自転車利活用推進計画分として再計上して計画に 	自転車活用推進担当部署を除き、自転車利活用推進計画分として予算計上している部署はなく、表示は困難。但し、ハード整備等予算が必要なものもあるが、ソフト施策等で現状行っている事業や現状の予算の中で、自転車を上手く取り入れること等についても検討したい。 ※R4年度に自転車活用推進補助金を新設予定。
		<ul style="list-style-type: none"> ・SDGSの位置付けの関係明確化 SDGsは多くの市民の関心を惹く状況にある。 自転車とSDGsとの関わりは多々あり、このことを多くの市民や企業が認識してこの計画を推進する意識を高めていくべきと考える。 SDGsに関わる具体的な内容を広く市民に情報発信して、この計画の施策だけでなく関連事業などを含めて推進することに繋げてもらいたい。 例えば、「住民の健康維持」にあたっては各組織や地域での健康生活のための取り組みに自転車の利活用を必ず取り入れてもらうこととする。など このことにより行政、各組織、企業、市民の関心を一層高めることができ、計画の推進に大きく寄与できる。 	SDGsと当自転車活用推進計画における自転車施策との関わりについては、P64以降に記載。
<ul style="list-style-type: none"> ・交流 既に基盤ができたアイルランドについては、自転車だけでなく交流を拡大して他のスポーツや文化で幅広い交流を展開を推進すべきであり、自転車で繋がるのがどれだけ可能性があるかを検討してもらいたい。 すでに豊川小学校ではオンラインでの交流が行われており、このような取り組みを広く進めてもらいたい。 	当市で東京2020パラリンピックに向けてサイクリングチームの事前キャンプを実施したアイルランドとの交流については、スポーツ以外にも文化・教育等様々な分野での交流を検討している。		

その他コメント

1	委員	<p>コロナ禍の中で、スタッフの皆さんも他課に異動されていましたし、思うように事業が進まないこともあったと思います。そんな中でも現時点までの状況を客観的に整理され、この後の方針を検討されようとしているのは、素晴らしいことだと思います。</p> <p>基本方針4の交通ルールの項に関しては、ここまでの進捗がなかった、ということかと思います。</p> <p>皆さんのご意見も伺いつつ、計画をより有効な形で実行できるようにできたらと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p>
---	----	--